

M.A.D. Gallery で展示されている Rhodium Birdfish (ロディウム・バードフィッシュ) は、ウルリッヒ・トイフェルが自らの手で美しく仕上げたモジュールエレクトリックギターだ。各部は、2 個のパーツからなるアルミニウムのボディ、交換も可能な木製のトーンバー、メイプル材のヘッドレスネック、そしてすぐに交換できるスライディングピックアップ。バイエルン地方のアトリエで、ウルリッヒただ 1 人、ギター部品のほとんどを手作業で製作している。工程の 1 つひとつに長い時間をかけるため、1 年に製作できる Birdfish はわずか 10 本だという。

Birdfish は、まずその外観に目を奪われる。その自由奔放な形はまるで未来から来たギターのようなのだが、よく見てみれば、伝統的なエレクトリックギターの要素がすべて揃っていることがわかるだろう。

「使う素材は昔ながらのものだけだ」とウルリッヒは語る。「最先端のテクノロジーの類は一切ない。ただ、形の既成概念を壊しているだけさ。」

Birdfish の製作に当たり、ウルリッヒは弦楽器職人として積んできた自らの経験と、インダストリアルデザインの研究から得た知識を融合した。

「そもその目標は、ギターを基本的な要素に分解して、自由度がとても高いギターを作り出すことだった」とウルリッヒは振り返る。「伝説的なギター職人のレオ・フェンダーが生み出したモジュールギターのアイデアを、さらに発展させようとしたんだ。モジュールを簡単に交換可能にして、共鳴の仕方が違うパーツを演奏者が選べるようにしたかったのさ。それに、ギターは持って感じて演奏するものだから、エルゴノミックデザインも取り入れたかった。演奏者の身体にじっくりくような形を目指していたんだ。」

この見事なギターの名前は、2 つの中心的部分である、音響的に最高なアルミニウムのブロックから削り出された「鳥」(Bird) と「魚」(Fish) にちなんでいる。トーンバーやピックアップ、ネックはすべて「鳥」に取り付けられており、またクラシックな 1950 年代のギターのように 5 方向スイッチを設けた「魚」がコントロール部として、「鳥」の頭部となる。

円筒型のトーンバーは、ギターの中央に横向きに取り付けられ、打楽器のような鋭いアタックを生み出す。**M.A.D. Gallery** のモデルは Rhodium Prodigy Birdfish (ロディウム・プロディジー・バードフィッシュ) で、キルテッドメイプル製のトーンバーが取り付けられている (予備セットはホンジュラスマホガニー材)。

トイフェルが 2008 年に初めて送り出した Prodigy は、クラシックなモデルに続くハイエンドなラインアップだ。このラインアップのハイエンドなギターは従来のモデルと比べ、トーンウッドの種類や最高級の金属メッキ、ピックアップ、ハードウェア、そして仕上げにこだわっている。そして、何よりも忘れてはならないのは、製作数が限定されている点だろう。

「ヘッドストックは、デザイン上の役割しか果たしていなかったと言ってしまうかもしれない」と、Birdfish でヘッドレスネックを採用したウルリッヒは語る。「構造面から見れば必要不可欠ではないものほとんどのものであっても、機能面で足を引っ張っている可能性がある。だから、ヘッドストックを意図的に排除したんだ。」

Birdfish の完成までには、いくつもの大きな壁があった。そのひとつが、ハードウェアの部品のほとんどを、ねじすらも製作しなければならなかったことだ。ウルリッヒは、部品がすべて自身の手による精密な仕様に従い完璧な調和を生み出すよう、CNC (コンピューター数値制御) を使った製造法を習得する必要があるがあったという。

Birdfish の独特なデザインは、ギターの上でもまれに見るほどの注目を浴びている。今や、書籍や専門雑誌で称賛を受け、デザインで 3 つの有名な賞を獲得し、美術館にも収蔵され、ギターコレクターの垂涎の的となっている存在だ。

Birdfish の有名な所有者には、ZZ トップのビリー・ギボンズや、メタリカでリードギタリストとソングライターを務めるカーク・ハメットなどが挙げられる。数年前、ツアーを終えたハメットは Birdfish を絶賛したという。もちろん、その先鋭的なデザインは、ギターファンの間でも大きく好みが分かれるところだ。ウルリッヒもそれは承知しており、納得して Birdfish を入手し演奏するには、どこかで直観に委ねる必要があるかもしれないと考えている。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru, (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

「新しい服を買っても、自分に似合うかどうかすぐには自信が持てないのと同じようなものだ」と説明する。「少し派手かもしれない、と不安になる。だけど思い切って着てみると、ぴったりくるんだ。Birdfish でも同じ感じかもしれない。Birdfish をステージで演奏するのは、個性の主張そのものだからね。」

「1950年代に、トレードショーでレオ・フェンダーがブロードキャスターを発表したときのことを考えてみればいい。その新しいギターは、鮮やかな色とソリッドボディが物笑いの種になった。見かけ倒しだと思われたんだ。でも、結局それがスタンダードになったし、一番重要なギターと言ってもいいような存在になった。そこまでではないにしても、私もあの時のレオ・フェンダーになったような気がするんだ。」

当社では、M.A.D. Gallery にて Rhodium Birdfish を展示している。「鳥」と「魚」はアルミニウム、トーンパーはハンノキ材、ネックはパーズアイ(鳥木目)メープルの古木だ。価格は 19,500 スイスフラン(スイス付加価値税込み)。

ウルリッヒ・トイフェルの経歴

ウルリッヒ・トイフェルは、ドイツのキッツインゲンで 1965 年に誕生。若くして独創性と創造性を発揮しはじめ、最初のギター製作は 14 歳の頃だった。

高校卒業後、メルセデス・ベンツなどのドイツ自動車メーカーで金属加工を身につける。また、インダストリアルデザインや美術史を学んだが、学位は取得しなかった。

学習に充てる時間を、独学で学んだアコースティックギターやエレクトリックギターの製作に費やしたからだ。たとえば、 دونالد・プロズナックが著わしたギターデザインの本を読んでいるとき、ウルリッヒはギターデザイナー兼製作者のステーブ・クラインの手による、見事なギターに衝撃を受け、ステーブ・クライン風のアコースティックギターを自分でも製作している。

やがてウルリッヒは、伝統的なギター製作に満足できなくなり、もっと大きな挑戦を探し求めはじめた。30 歳になったとき、カールスルーエ工造形大学の 4 年制インダストリアルデザイン課程に入学し、ギター製作でまったく新しい手法を開拓。自身の先鋭的なギター製作コンセプトをドイツの楽器市場が受け入れるかどうか確信は持てなかったが、海外ではそのデザインが受け入れられるだろうという自信があった。

そして、ついにウルリッヒは「モジュール」式のギター Birdfish を生み出し、1995 年のフランクフルト・ミュージック・フェアで初めて公開した。トイフェルの手によるコレクションには、他にも Coko シリーズや Niwa、Tesla などがあり、Tesla はジャズ系の実験音楽で一般的に使われるようになっている。

ウルリッヒ・トイフェルはアーティストのようにギターを製作し、完成品をアート作品だと考えている。「Teuffel Guitars 社は私の人生とともに終わる。私の死後、私の作品が受け継がれる必要はない。すべてに終わりは来るんだ！」

技術情報

ギターに取り付けられたトーンパー: キルテッドメイプル

フライトケース内のトーンパー: カーリーホンジュラスマホガニー

フィンガーボード: エボニー

ピックアップカバー: エボニー

ネック内のトラスロッドとブリッジサドル: チタニウム

フレット: ステンレススチール

Rhodium Birdfish はすべて、ピックアップ 5 種類とトーンパーのセット 2 種類とともに出荷。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru, (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36